

## 部会報告

### 旭川市医師会「研修会」報告

旭川市医師会女性医師部会

部会長 長谷部 千登美

女性医師部会の平成28年度の研修会は、「PRP療法によるしわの治療～まつ毛貧毛症（睫毛貧毛症）治療薬のご紹介も交えて～というタイトルで、2017年2月10日に、旭川グランドホテルで開催されました。講師を務めてくださったのは、あけ美肌クリニック院長の田村明美先生です。

PRPとはPlatelet-rich plasmaのことで、PRP療法は患者さん本人の血液から血小板を濃縮し、血小板に内包する各種の増殖因子（サイトカイン）を放出させ、局所で作用させる治療です。この血小板の濃度を通常の4～7倍に濃縮して皮下に注入することにより、サイトカインを脱顆粒させて一定時間持続的に作用させることにより効果が発揮されるということです。PRPを用いた再生医療は歯科・慢性潰瘍・褥瘡・熱傷・血管再生・骨折など多方面の治療で応用されているとのことですが、今回は美容皮膚科の領域でしわの治療として行われている内容をご紹介します。この治療は第3種再生医療と位置付けられており、実際に行うにはPRPを作成するための設備等、施設としての認可を受けることも必要とのことでした。

実際に治療された症例の写真も提示していただきましたが、多くの症例で明らかにしわの改善がみられており、患者満足度が高いということが実感できました。

次に、睫毛貧毛症治療薬のグラッシュビスタのご紹介をいただきました。

睫毛は、老廃物や強い日光から目を保護するものですが、表情・眼元の印象に大きな影響を及ぼすもので、多くの若い女性が睫毛を長くするメイクを行っています。睫毛は加齢やさまざまな全身疾患、そしてケアに伴うダメージが原因で減少してしまうことがあり、これが睫毛貧毛症といわれています。薬剤開発の経緯としては、緑内障・高眼圧症の治療薬として開発されたLUMIGANが睫毛の発育を促すことが判明し、2008年にLATISSEとの名称で米国にて承認されたものです。このたびこれが、グラッシュビスタという商品名で塩野義製薬から発売されました。この薬剤は、睫毛の毛周期における成長期を延長させることにより効果を発揮するもので、睫毛はより長く、より豊かに、より黒くなるといわれています。

先生のご経験によると、効果を確認できた割合は55%（しかし30%はその後の受診なし）、副作用中止が10%とのことでした。副作用としてはかゆみや眼周囲の色素沈着などが指摘されているとのことでした。

今回のような美容皮膚科に関する知識は、診療に追われている日常のなかでなかなか得られる機会の少ない貴重な情報でした。今回のお話を参考にして、女性医師の目力アップ、しわの軽減をはかり、皆で若さを維持できると嬉しいと思います。

講演会にたくさん参加していただいた、女性薬剤師の先生方にも、ぜひこの情報を共有していただければと考えます。

